

地域スポーツの構図

大西國男*

(1986年4月30日受理)

An Attempted Design of Community Sports

Kunio ŌNISHI

キー・ワード：地域スポーツ，指導者，組織，集団，施設，全体構図

社会体育は，学校の教育課程として行われる体育活動以外の組織的な体育活動の面で考えることができる。社会体育と学校体育の領域は，単的には学校教育外活動と学校教育内活動に分けられる。学校体育外活動は社会体育活動であり，学校の対外試合などについては，学校が直接関係しなくてもよい形になっている。

社会体育活動のうち，地域スポーツは，住民の生活領域を基盤とした一般大衆と称せられる人びとの自主，自発的スポーツ活動である。ここでは，現代の社会体育の主領域である地域スポーツについて，全体的構想の中で実践活動のための関連事項を適宜に組み合わせ，構成できる地域スポーツ活動の関連図形を考え，地域スポーツの構図を描こうとするものである。

地域スポーツを促進するためには，多面的な内容と多角的な指導計画が必要である。そのために，地域スポーツの特性に応えた活動と，その指導に当たっての活動処方を検討すべきである。そして，運動文化財的特徴を日常生活における実践活動的観点から整理することである。それは，活動を促進するための中心的要素を把握することであり，地域スポーツがもつ日常生活化における意味の発見である。すなわち，運動の生活化へと発展する地域住民スポーツの素地を，具体的な事象として把握することを意味するのである。

作図に当たっては，社会体育推進の必須領域である指導者（スポ指，体指），組織（行政，協会，クラブ），集団（グループ，利用者），施設（公共，企業施設）を中心要素として配置し，社会体育の実践活動について，地域スポーツの総括整理を意図した構図を試みたのである。

* 茨城大学教育学部

§ : 地域スポーツの構想
〈地域スポーツの課題発見〉

1. 地域におけるスポーツ活動

1) 地域スポーツ活動の基本的方向

- (1) 地域スポーツ活動は、運動を楽しむことである。運動の楽しさの条件を枚挙するまでもなく、プレイの要件はファン（楽しさ）である。初歩的基本的な活動は、身体（からだ）を動かす楽しさよるこびであり、楽しみのためのスポーツが地域スポーツの基本的な活動方向である。
- (2) 現在の社会生活の実態から、省力、単調、社会的歪現象を否定することはできない。これを解消するために、スポーツの特性による生活の変化と、豊かで活力のある活動を実践する。
- (3) 仲間ができ、運動以外でも交流を深める。仲間意識や連帯性は、スポーツ活動の相互協力と信頼性により、融和と連帯を深める。それはスポーツ以外の日常生活へと発展する。
- (4) 明るく楽しいスポーツを、自分に応じて継続して行く。自己の目的や好みに応じて、運動（スポーツ）を選択し、生涯スポーツへと発展させる。過度の競技力向上、高度な技能志向、あるいは勝敗に対する固執などは、独善、排他、孤立などをまねき、分裂や中断を来たすことになる。
- (5) 余暇を利用したスポーツによる健康、体力の保持増進を図る。省力化による運動不足、生産機構と経済生活向上、余暇の増大、社会病理的現象による精神身体的ひびみや不安の解消は、国民的課題である。同様に、運動のやり過ぎが健康や体力を破壊することも知るべきである。

2) 地域スポーツの活動理念

- (1) 自分のためにするスポーツは、本来自由が第一条件である。地域スポーツへの参加の動機は、個人によって異なり、活動実践に当っては自主・主体的であり、自分自身のためにする。
- (2) 地域スポーツ活動は、継続したスポーツ活動として実践すべきである。すなわち、日常生活リズムの中のスポーツとして位置づけるようにする。生涯体育の実践活動である。
- (3) 健全な生活を礎くために、健康で明るく、心豊かな家庭生活を営むことは、幸福の原点というべきである。スポーツ文化の享受と健康の保障は、地域住民の権利的要求である。
- (4) みんなで力を合わせて活動するスポーツ集団やクラブ活動の中から、主体性と協調性、役割分担と協力のための自発活動が生まれる。それによって地域社会活動の連帯性が確保できる。
- (5) 健康と福祉の確保は、住民の権利であり行政施策はこれを保障すべきである。行政の保障程度や役割区分は、公的施策や企画の面で考えるべきである。そのうえで、日常活動的スポーツに必要な諸経費は、自前主義による自己負担方式で考える領域である。

3) 地域スポーツの特性

- (1) 地域スポーツは、生活領域を基盤としたスポーツ（運動）である。それは、学校区、町内会、団地、商店会などによる編成、種目、施設、同窓、スポーツ教室から生まれたグループやクラブによる活動様式を持っている。

- (2) 生活の中のスポーツとして、個人の生活条件や家庭環境を優先するスポーツ活動である。生活スケジュールの中に組み込まれたスポーツ志向を、生活体育、生涯スポーツに位置づける。
- (3) 自らの楽しみや健康のために、自己の経験や能力に応じた愛好スポーツである。個人的スポーツ、集団的スポーツなどそれぞれ特徴があり、種目の特性がある。また健康体力づくりのために積極的に参加するもの、プレイを楽しむなど、チームワークをとりながらプレイを楽しむ。
- (4) 体力、技能、年齢、経験など多彩な人びとの参加によるものである。参加の動機が多様であるように、実施目的も多彩である。それは、地域スポーツの活動理念に依拠することである。
- (5) 参加も退会も自由なグループ活動である。一般に、地域スポーツの促進はグループ活動からクラブへ発展させ、スポーツ教室からクラブを結成する。それは、地域スポーツ活動の原型というべきであり、活動の特性であると言える。

2. 全体的構想へのアプローチ

1) 総括的方向への提案

ここに提示された資料「地域スポーツの全体的構図」(図5)を下敷にして、例えば学校に関連する領域、行政の役割、住民をとりまく諸事情、環境条件の整備状況等などに関連する諸問題、諸条件についてそれぞれ領域的に取り上げながら、地域スポーツの全体的構想に向けての研究過程と課題発見過程を捉えてみるための提案である。

(1) 地域スポーツを全体的に構想するには、今後なお一層の衆知を集め、研究資料、学識経験の蓄積が必要である。かつまた現実に、現場で掘り起こす事柄も多い。従って、今後とも問題別の掘り下げを継続すべきである。

活動	視 点	課 題
実践報告 (I)	<ul style="list-style-type: none"> ○地域スポーツとはどんな活動であったか (歴史過程) ○地域スポーツの現実はどうなっているか (活動報告) ○地域スポーツの活動内容はどんなものか (内容反省) 	<p style="text-align: center;">[事実認識]</p> <p style="text-align: center;">(理念を暗示する)</p>
活動方針 (II)	<ul style="list-style-type: none"> ○望ましい地域スポーツはどうあるべきか (本来の姿) ○よい指導者はどうあるべきか (役割, 能力, 資質) ○どのように進めるべきか (志向と特性) 	<p style="text-align: center;">(認識の視点を与える)</p> <p style="text-align: center;">[基本理念]</p> <p style="text-align: center;">(実践を指導する)</p>
実践活動 (III)	<ul style="list-style-type: none"> ○何をするか (内容分析) ○どう計画するか (計画立案) ○どう実施するか (方法指導) 	<p style="text-align: center;">(理念を批判する)</p> <p style="text-align: center;">[実践研究]</p>

図1 地域スポーツの研究過程と課題の発見過程
(モデル：浅田隆夫篇, 1983「体育科教育法」
学術図書出版, P 7)

(2) 構図に示された各中心的領域 (指導, 組織, 集団, 施設) から、それぞれの課題発見と課題解決の条件を整理して行く。その中から相互関連事項へ敷衍させながら、地域スポーツ促進へ向けての全体構想を試みる。活動過程及び課題発見過程を視点に応じてフィードバックする (図1) ことによって、各中心的領域の整理を志向することで、全体的構想へアプローチする。

(3) 地域スポーツの実践活動的性格から、理念の確立や活動概念について画一規定的、もしくは二

者択一的に整理することを差し控える場面も多い。例えば、スポーツ少年団や高齢者スポーツ、家庭婦人スポーツとファミリースポーツ、大衆スポーツとスポーツの高度化など、幾多の話題や問題提起がなされている。これらの点からも話題を整理し、焦点を地域スポーツに絞った問題の取り組みが必要である。ここにあげた視点は、そのための基調となるものとする。

重点施策	実態把握	発展・補充	新課題の発見	解決への処方	
1. 行事の企画・実施 体づくり、運動会、 スポーツ教室	住民の参加状況	参加意欲の誘導、 種目、内容、アイデア	市民のニーズ（期待）	具体的な方策	つかむ
	施設、場所の利用状況	施設整備、用具器材、 資源の活用	利用法、マナー 安全管理整備		
2. 団体、クラブの育成 組織の充実 クラブ育成、婦人、 高齢者、少年団、 クラブ連合	メンバー構成、企画、 立案、部会活動の実態、 組織活動、経費	会議の実態、業務内容、 分担、グループ活動の 援助	役員編成、ミーティン グ、予算のたて方、教 材の選び方、新しいク ラブの発足	実践の処方 (結果の見通し)	見通す
		グループ、個人欲求、 ファミリーの希望	流動、集団、企業、団 体活動		
3. 指導者の育成と指導力 強化 資質の向上、ボランテ アの発掘、指導体制の 強化	参加者層、及び対象、 教材、種目、経験	グループ、個人欲求、 ファミリーの希望	流動、集団、企業、団 体活動	工夫・考察 (取り組み方)	工夫する
	活動の継続、自主参加 活動	愛好性の伸展 参加と適応	クラブ活動支援、生活 体育へ進展		
4. 各種団体の連絡交流強化 種目団体、連絡協議会、 行政地区実践会	理解協力と役割 分担の状況	自主自発と役割分担の 手順	地域の特性と住民活動 の傾向の方向	結果の評価	確かめる
	指導法、資質の向上、 ボランティア育成	計画立案の方法、内容 及び指導性	技能の向上、意欲の啓 発、指導力修得		
5. 広報並びに資料の活用 広報、放送、キャンペ ーン	団体、クラブの連絡 協議の実態	行事の調整、クラブ連 合、フランチャイズ	インフォーマルグルー プの活動と期待	望ましい姿 (思索・仮定) 実践の総括	まとめる
	情報の把握	種類、内容、伝達方法、 目的	生活に必要なスポーツ の情報		
				新たな課題の発見 (重点施策へ) フィードバック	補い深める

図2 地域スポーツの課題発見の構造化モデルA (施策振興課題の発見)

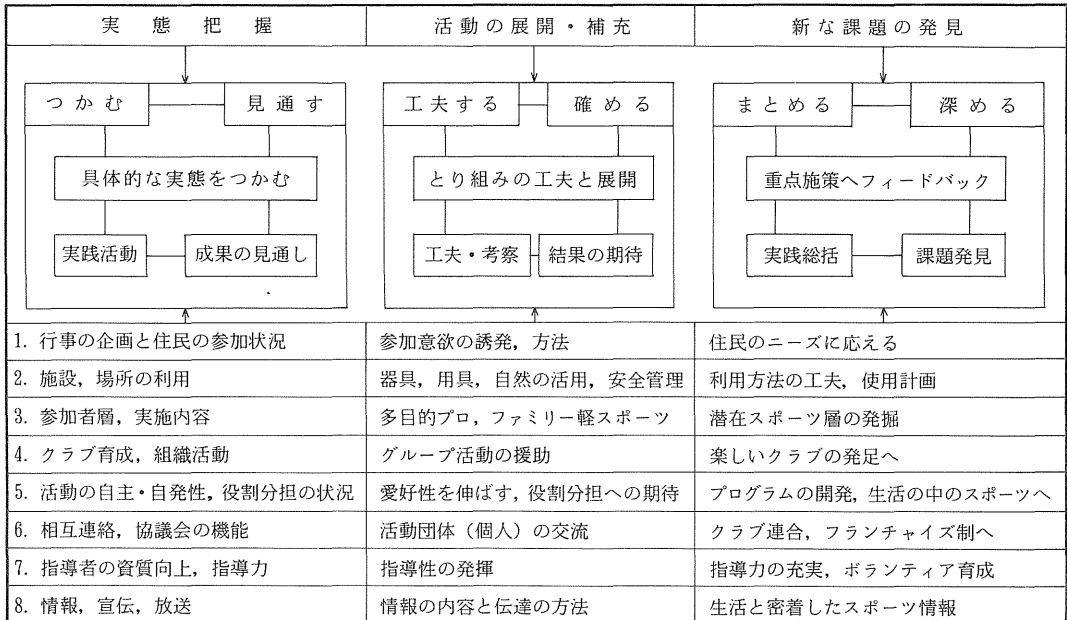


図3 地域スポーツの課題発見の構造化モデルB (活動の展開と問題の指摘)

各市町村では、社会体育推進の方針をもっている。そして基本方針，重点施策を掲げている。例えば、地域住民は企画に応じて活動できたか。行事にどのようなアイデアが盛り込まれたか。協力や理解を得るために、実際にはどんな問題があり、その問題解決に対する手だてをどうしたか。組織の充実，各種団体との連絡強化，広報及び資料の活用など，目的を成功に導くための具体的な方策や活動とその成果，地域の特徴や問題点に関する対応の仕方に対する具体的な方策はどうしたかなど，地域全体を対象とした視野の中で，地域スポーツ活動の普及，促進を研究するところにある。すなわち，それぞれの地域の特性に応じた活動の仕方のなかで，すべての住民が積極的なスポーツ活動の実践へと志向するための課題把握と，問題解決にむけて研究協議を進めることである。

3) 地域スポーツの構想(図5)

- (1) 施設利用(施設整備と利用状況)
- ・施設の数，整備……利用状況，整備充実
 - ・種目別利用，競合……行事，利用者の要求
 - ・使用手続，運営……貸与，開放。

領 域	ね ら い	志 向
青少年スポーツ	基礎体力づくり	経験スポーツ
壮年スポーツ	健康保持 ・ストレス解消	健康スポーツ
高齢者スポーツ	生き甲斐と友好	福祉スポーツ
婦人スポーツ	明るい生活	楽しみスポーツ
職場スポーツ	休養と娯楽	厚生スポーツ
混成スポーツ	世代交流	ファミリースポーツ

- (2) 指導者確保(養成と指導者組織)

- ・指導者養成……ねらいと方法，アフターケア
- ・指導活動……指導実践と活動保障

- ・資格と保証……役割分担と身分保障。

(3) 組織，行政機構(指導体制と企画)

- ・行政組織……管理機構，指導組織の整備
- ・体指，スポ指……役割分担，指導体系
- ・企画と指導……行政企画と指導計画。

(4) 環境条件の整備(生活の合理化とスポーツ志向)

- ・生活時間の合理化……明るく楽しい生活構成
- ・健康認識と自主性……健康スポーツ認識
- ・スポーツの愛好性……実践，理解，協力，支援の実態。

図4 地域スポーツの活動領域と活動様式
(地域スポーツの望ましい活動志向)

4) 社会活動的意義(生涯スポーツ的志向)(図6)

- (1) 社会生活事象と文化活動(地域スポーツの内的認識)
- ・生活上，余暇増大……文化活動へ志向
 - ・社会病理現象……健康権の確立。
- (2) スポーツ生活の形成(スポーツ参加と体験)
- ・生活スポーツプログラム……愛好的スポーツ
 - ・ファミリースポーツ……生活体育プログラム。
- (3) 集団活動と役割分担(グループ，クラブ活動)
- ・クラブ結成……活動体系，役割分担
 - ・フランチャイズ……クラブ連合，組織活動。
- (4) 自主，主体活動(積極参加と協力)
- ・行事参与……自由，自発，個人参加
 - ・自主プログラム……健康スポーツ実践活動。
- (5) 地域スポーツと学校(社会体育と学校)
- ・施設開放……コート，フィールド志向
 - ・指導者育成……専門性と社会保障
 - ・スポーツ少年団……施設開放，指導者発掘。

5) 地域スポーツの促進(施設と条件整備)

- (1) 住民のスポーツ意識の啓発（社会的活動としての地域スポーツ活動） ・スポーツの日常化志向と生活時間の合理化と余暇利用 ・社会集団活動とスポーツ行事，地域連帯交流 ・生活スポーツプログラムとファミリースポーツ。(2) 施設の充実整備と開放（学校開放と施設利用） ・利用方法と管理機構の合理化 ・学校体育施設の開放と企業施設の活用 ・指導者の確保と運営組織の編成。(3) 行政の任務と施策（行事企画と指導援助） ・指導者の養成と各種目団体の組織育成 ・指導管理機構の整備と系統化 ・行事企画と指導及び援助。(4) 活動条件の整備（活動条件，体制） ・集団活動とスポーツクラブ結成，活動育成 ・指導体制の確立と指導活動の組織化 ・施設，資源，資材の利用とフランチャイズシステムの採用を考える。

§：地域スポーツの指導
 <指導者の役割・機能>

1. 地域スポーツの指導理念

1) 指導の基本条件

- (1) 指導概念： 指導ということは，技術を教える。理解させる。技能を身につけさせる。経験させることである。そして学習者中心のスポーツ活動が全く個人的なことであるという考え方ではなく，コミュニケーションとしての学習「伝承と創作」が統一されて来ること。すなわち，指導とは人と人との交渉を本質とする社会事実である。

実際の活動の場面の中で，これまで身につけて来た知識，

技能，態度をもとにして更に進んだ行動をとるように変容しながら，新しい能力を身につけていく自主的活動が，社会体育地域スポーツの基本的態度であると考えれば，指導法は「それぞれの課題に応じて内容を構成し，環境や活動の条件を整え，正しくしかも効果的なスポーツ活動を意欲的積極的に進めていくための手だてである。」といえることができる。

- (2) 指導の基本条件： ①目標をもたせる — 到達（克服）目標，課題（要求）目標を持つ。
 ②意欲を起こさせる — 興味を持たせる。意欲を喚起する。 ③練習過程を大切にする — 上達の変化がわかる。新しい動きが身につく。 ④新たな挑戦をする — 新たな経験への挑戦と克服，可能性の自覚。⑤スポーツ好きになる — 健康で明るく，愛好性をもつことである。

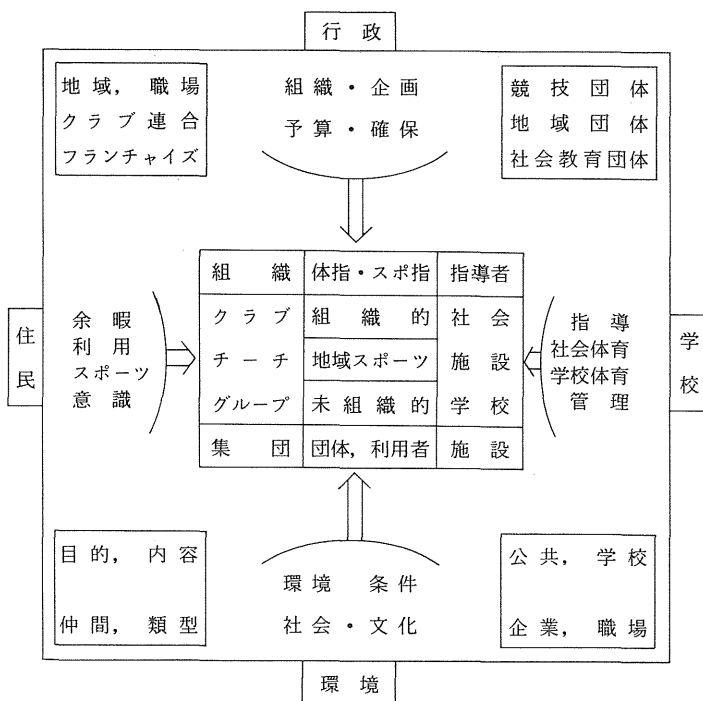


図5 地域スポーツの全体的構図

2) 指導の実践場面 (図6)

- (1) 目当てをもった活動をする — 個人, グループで自主的課題をもつ。①練習課題をどのように与えるか (目標, 課題) ・指導者側……やることはこれ。注意することはこれ。・仲間側…自分で, 自分達でやりたいことはそれぞれきめて。②教えたこと, やらねばならないことを明確にする。(目当ての不明確, 熱意の消滅, 責任回避は暇つぶしとなる)
- (2) 自主性, 自己責任性を育てる — 展開の過程を重視する。①自分で, 自分達で目標を設定。②活動の方法 (種目, 内容) を選定し, 自分で, 自分達で努力する。③結果については, 自分で自分達で責任を負う。活動への参加は個人が原点であり, 個人の幸福を志向する。(強制, 犠牲, 激しいスケジュールを避ける)
- (3) 努力や発想を認め合う — 進歩を発見し, 喜び合う。①実施後の積極的追認。(進歩を認知し全員に伝える) ②課題を発見し努力する。(課題の取り組み方, 努力の仕方を反省, 評価する。言葉, 態度, 説明, 成績, 資料等も反省・評価の材料となる)

2. 地域スポーツの指導者

1) 指導者の資質

- ①指導者にふさわしい人格, 識見, 指導力をもつ。②自らもスポーツを愛し, よいスポーツ仲間になれる。③地域スポーツの特徴, 特性について理解をもつ。④地域スポーツに奉仕する情熱をもつ。⑤自ら学ぶ積極性と, 役割・機能を認識し研修する。

2) 指導者の役割と自覚

- (1) 体育指導委員他: 地域スポーツ実践者の実態と生涯スポーツ志向の理念を踏まえ, 時代に対応した施策の企画・立案をすることが期待される。

体育指導委員は, 昭和32年社会体育指導組織の確立を目的とした文部事務次官通達「各都道府県教育委員会

— 地域スポーツの振興について」によって発足した。昭和36年スポーツ振興法 (第19条) の制定により, 法的な位置づけが確立された。いわゆる市町村の非常勤公務員として, 地域住民のスポーツ振興を担う実践的指導者の中核的存在である。各種の民間指導者のリーダーとして, 行政とのパイプ役を果す役割を持っている。またそのための資質の向上に努めるべきである。

スポーツ指導員は, 主として地域におけるスポーツ活動を実践しているグループやクラブを対象に, 導入的, 基礎的なスポーツ技術の指導や, 一般的な身体活動の指導を行ない, かつ活動組

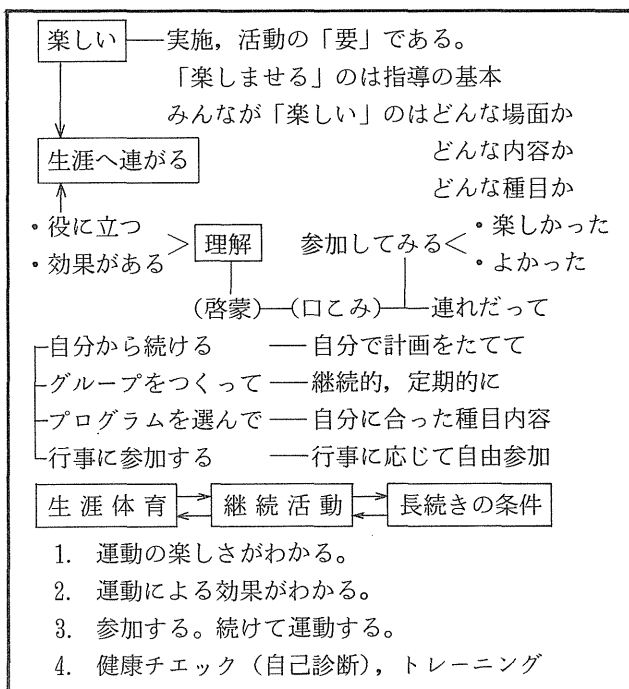


図6 生涯体育実践指導の過程

織の育成，指導にあたる。指導対象者の性，年齢，経験，運動能力に対応する専門的な知識と指導技能を身につけ，一応の指導経験を有する者である。（日本体育協会公認スポーツ指導者制度は，昭和52年4月1日から実施）また，各市町村では，体協や団体の公認指導者の養成及び認定が行われ，スポーツ指導員本部（リーダーバンク）の組織も設けられている。

- (2) 指導者としての自覚：主役は参加メンバーであり，俺についてこいの「ワンマン」ではない。
 ①地域スポーツの在り方に沿った指導。②縄張り根性，独占意識をもたない。③安全管理を配慮する。万一の怪我の場合の処理を考える。④種目の専門家が絶対条件ではないのである。

§：地域スポーツの組織

<組織活動の機能的課題>

1. 組織機能と活動課題

1) 組織活動の課題

組織活動の変動（発展）のモデルを機能的課題から捉えると①既定の組織構造②新しい要求運動組織③開かれた組織構造④組織機能の分化⑤大衆が権利要求の主体となる組織活動の課題が考えられる。（図7）

- (1) 既定の組織：既存の組織構造との矛盾が生まれる。それは閉鎖的システムの保全により，組織の欲求充足と集団形成の維持を図ろうとする面と，組織特有の目標遂行の機能を果そうとする面がある。

	組織変動モデル	① 既定の組織構造	② 要求運動の組織	③ 開かれた組織構造	④ 要求に答える組織構造	⑤ 大衆が権利要求の主体
目標（課題）遂行の機能	メンバーの目標達成	個別組織のエゴイズム	新しい要求運動の主体形成	個別組織の打破・複合	組織構造の機能分化	任意的要求の主張
集団形成（維持）の機能	組織の欲求充足を一本化	閉鎖的システムの保全	組織への働きかけ	複合的，流動的組織	適応システムの変更	個を確立する要求運動

図7 組織活動の課題モデル

組織活動において個（主体性）を確立する要求への機能的課題についての構図

- (2) 新しい要求運動の組織：要求運動の主体と組織の対抗があ

る。それは，組織への働きかけによって，より堅実な集団維持を図ることと，目標達成のための要求主体の形成へと発展を図ることであり，既存の組織の改革と新しい組織活動の発生がある。

- (3) 開かれた組織構造：開かれた組織構造として複合的，流動的な組織機能を維持する活動と，目標達成のため個別組織のエゴイズムを打破しようとするものである。

- (4) 要求に応える対応組織：組織機能の分化により，要求に応える組織構造への発展である。それには集団形成維持に代えては適応システムを変更する方向へと志向する。目標遂行を果すためには機能分化を考えた組織構造を編成する。

(5) 大衆主体の組織：大衆が権利要求の主体として、個を確立する要求運動から組織の欲求を一本化する。メンバーの目標達成は任意要求の主張に従って、目標遂行機能へと発展する。

以上の組織活動の課題モデルを考察すれば、地域スポーツの組織活動ではそれぞれ主体性を確立する要求運動の組織へと変動転換することが課題となることが考えられる。

2) 組織活動の展開領域の類別

地域住民のスポーツ活動をクラブ（組織）化し、クラブ連合へと発展させることは、大衆スポーツ促進の課題である。生活の中のスポーツや、自発的自主クラブを育てるための活動としては、グループの指導は極めて重要な観点である。それはグループ（集団）を組織化することであり、一定期間そのグループ活動を継続させることが要求される。組織活動の領域では、グループ活動（チーム）、クラブ活動（クラブ連合）、総合的活動（協会、連盟組織）に類別することができる。

展開場面 活動領域	① 活動計画の		② 活動内容の		③ 活動運営の	
	主体と方向		性格と体制		方法と様式	
地区・地域	クラブ	実践参加	自発	集団	自主	自律
市・町・村	クラブ 連 合	創造試行	協調	組織	協議	提携
ブ ロ ッ ク 国 ・ 県	連 盟 協 議 会	助言指導	指示	要請	統一	制度

図8 組織活動の展開領域モデルスポーツ組織の活動領域の類別

組織活動の領域展開では、スポーツ組織において活動の領域、活動計画（主体と方向）、活動内容（性格と体制）、活動運営（方法と様式）の面から活動展開の類型が考えられる。（図8）それは活動の特性ともなる。

- (1) 活動計画の主体（クラブ — クラブ連合 — 統合）と活動の方向（実践参加 — 創造試行 助言指導）にむけての活動特性を発揮する。それは活動領域の発展的類型における展開である。
- (2) 活動内容の性格（自発 — 協調 — 指示）と体制（集団 — 組織 — 要請）の傾向を展開する。
- (3) 活動運営の方法（自主 — 協議 — 統一）と活動様式（自律 — 提携 — 制度）の方向で展開される。それぞれの活動領域の特徴に応じて発展する方向と展開場面の特性に応じた組織機能を発揮することに着目することが必要である。

3) 組織活動の実践展開

- (1) 組織の在り方（活動方針）：①スタッフの構成 ②目的と活動方針 ③活動内容の検討。
- (2) プロジェクト（計画編成）：①メンバーの構成 ②内容と教材の選定 ③予算、会議、広報。
- (3) 具体的な指導（活動展開）：①ミーティングの持ち方 ②予算のたて方 ③指導者の編成 ④教材の選び方 ⑤広報の仕方 ⑥アンケートの取り方 ⑦内容の分析 ⑧住民のニーズ ⑨総括反省。
- (4) 調査の実施：①観察、面接、質問紙、テスト、集団討議 ②各種資料の検討。
- (5) 広報活動：①特定事業（運動会、スポーツ行事、教室等）の周知 ②スポーツ政策や諸事業の通知 ③生活に必要なスポーツ情報 ④地域スポーツのための啓蒙。

スポーツ振興の方法に行政主導型という言葉がある。地域の体育，スポーツを振興するために，スポーツ活動の成立維持に必要な諸条件を整備する任務は，市町村教育委員会が担当してきた。それは，施設の整備充実，スポーツ教室や各種行事や競技会等の様々な事業を実施して来たのである。またスポーツの興味や意欲を喚起するための情報提供，啓蒙活動を行って来たのである。しかし，地域スポーツの本質的在り方を考えるとき，スポーツを楽しもうとするもの，運動を実施しようとする者自身が，仲間と共にスポーツの楽しさを楽しむ場や機会を作り出す必要がある。

2. 地域スポーツ振興のための組織

1) 行政側の役割

行政側の役割		地域スポーツ活動
行事企画，計画立案	接点	実態の把握
役目を割り付ける	外郭団体	団体
	体指	集団(グループ)
割り当てられた役目，任務	スポ指	インフォーマルグループ
	スポーツ主事	個人
指導助言 プログラム提供	指導員	ファミリー
	課題発見	問題点の抽出

図9 役割の領域(地域スポーツの促進)

役割	接点	活動・内容
役目を割りつける	(他の者に) 橋渡し 技術の指導 体協と連絡 体指 スポ指	体育指導委員 (地区実践委員会) 市町村体育協会 (スポーツ指導員) 体力測定判定員等
		割り当てられた役目，任務 指導，助言 専門職員主事
反省 評価	総括 協議・連絡会議	手順，過程 結果の反省

図10 行政側の役割(接点の活動)

2) 住民組織の確立志向

- (1) 住民自らの発意：①住民の活力導入(地域の組織に支えられ生活に密着した)②振興の度合い実態の検討(クラブ結成，教室開催，行事等の現象的な把握)③スタッフの確保(体育指導委員，スポーツ指導員，ボランティアリーダーを発掘する)。
- (2) 行政側の指導，援助：①スポーツ振興審議会，体育指導委員，地区実践活動組織委員，指導者組織 ②組織活動の基盤(体育施設，学校開放，コミュニティセンターを保障する)。
- (3) 啓蒙，発展：①地域スポーツの権利意識(活動の場，機会の享受)②地域スポーツの義務意識の育成(マナー，役割遂行，受益者負担)③組織活動の良好な人間関係を育成助長する。

3) 地域スポーツ振興組織の類型(例)

- (1) 大規模の都市では，ブロック，地区に分け，また体指を組織し，部門を設けて活動促進を図る。教育委員会の体育課がスポーツ振興審議会及び体育指導委員会との協力体制をとりながら，競技力向上と大衆スポーツの両面にわたって，総合的に振興を図る。
- (2) 大衆スポーツでは，体育指導委員を中心に公民館活動を連動させる。体育館に事務局を置き，競技力向上と大衆スポーツを総合的に管轄する。競技連盟と大衆スポーツクラブの二本立組織。
- (3) 地区体協に分割組織され，独自の活動を行う。体育協会・競技団体(専門部会)と地区協会の

- 二本立てで組織する。行政とは横の関係（指導援助及び補助）で結ばれている。
- (4) 教育委員会とスポーツ団体（競技団体，住民団体）が横の関係で結ばれている。教育委員会とスポーツ団体は，お互いの主体性を確保できる。なおスポーツ団体と独立した種目団体も活動可能。
 - (5) 地区を単位とした住民組織をつくる。集落におけるスポーツ活動の企画・運営はクラブが行う。
 - (6) 住民代表で決定した学校開放運営委員会組織を発足，実施する。学校開放運営委員会の組織づくりに当って，教育委員会と住民代表またはボランティアによる学校開放研究会の調査結果から運営委員会を発足させる。

§：地域スポーツの集団
 <スポーツクラブの活動>

1. スポーツクラブ結成への過程

1) 地域スポーツ志向への課題

- ・愛好グループの統合化への誘導，活動場所の斡旋・提供，指導者の派遣確保，プログラムの提供がある。
- ・クラブ育成の方策として，グループ活動への誘導，スポーツ教室とアフターキャー，集団形成への過程と組織化が課題である。（図11・12）

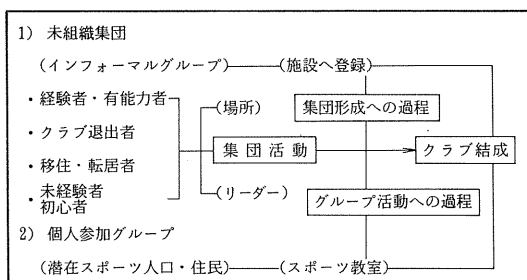


図11 クラブ結成への経路
 (流動的なスポーツ同好者の集りから)

2) クラブ結成への具体要素

活動対象	具体要素	中心要素
1. 個人 インフォーマルグループ	理解，参加活動，協力 指導者の確保，施設確保 クラブ育成	施設，指導者の確保 クラブ結成
2. フォーマルグループ クラブ結成 クラブ連合	集団運営，維持，管理 技術提供，初歩技術修得 施設の共有 情報伝達（会報発行）	クラブ運営，維持管理
3. 団体（組織活動） 要求者 代弁者	企画と運営，啓蒙宣伝 相互連携，情報交換 クラブ育成，技術提供 行事企画（競技大会，教室） 連絡協議会（研修，連絡）	クラブ育成 技術提供 住民スポーツ活動の推進
4. 共通課題 楽しい 健康スポーツ	啓蒙理解，参加，協力 仲間づくり，クラブ結成 自主運営，受益者負担 情報交換，連絡協議 施設，指導者の確保	みんなのスポーツ活動

図12 生涯体育志向への経路

2. 地域スポーツの普及促進

1) 地域スポーツ促進のための課題

- (1) 実態把握＝地域スポーツ活動への参加の動機，目的の調査
 - ①経験，理解 ②愛好性，参加 ③連帯融和 ④健康体力 ⑤ストレス ⑥余暇善用 ⑦技術修得 ⑧施設場所利用状況
- (2) 活動欲求への対応＝活動条件の促進
 - ①参加への誘導 ②生涯スポーツの認識 ③敬蒙活動及び行事 ④講習会教室開催 ⑤場の設定提供 ⑥プログラムの開発
- (3) 条件の整備＝行政施策（地域の特性）
 - ①施設開放 ②指導者派遣 ③クラブ活動

④巡回指導 ⑤組織の整備 ⑥行事の企画 ⑦市報, 広報, PR

2) 生涯体育への展開 (図6)

生涯体育施策(反省) = 既存のグループ活動(対象), 特定の種目(内容), 既成の行事(方法)の反省

- (1) 対象は, スポーツ少年団, 家庭婦人スポーツ, 高齢者スポーツなど。(図4)
- (2) 内容は, 競技力向上のスポーツ少年団, 勝敗へ過熱する婦人スポーツ・高齢者スポーツなど。
- (3) 方法は, スポーツ教室, 健康教室, 体育祭, 運動会, レク大会, 各種競技大会, 学区対抗等。

3. 地域スポーツの集団活動

1) 集団活動の類型

グループ活動では, 集団成員の相互交渉(人間関係)が重視される。役割の取得, 認知, 期待, 遂行などの集団活動を通して, お互の信頼や相互の協力体制が高められる。

実情	①体制内化することで欲求を実現する	②多面的活動単位による機能の衰微から	③陳情, 要望を發揮する団体	④行政との関係を持たない
タイプ	行政との癒着	行政との補完	圧力団体的機能	自主自立による協調

図13 集団活動の実践タイプ

スポーツ集団活動において, 集団機能の傾向と当面の実践活動方針からの分類

スポーツ集団の活動タイプについて, 集団的機能の面から考えると①行政指導依存型では, 指導体制に順応しながら欲求を実現する。初期の集団形成に多いタイプである。②行政側の支援を得ながら, 活動機能を達成する型では, 活動単位が多面的様相を持つようになると, 単位機能の衰微を補完する必要が生ずる。③圧力団体的機能を發揮しようとする集団型では, 集団のエゴに起因する場合が多いと考えられる。そのなかで環境条件や社会状況に対応した要望, 陳情を發揮する。④自主自立による相互信頼と協調による活動タイプでは, 行政との関係を持たない集団活動の特徴とするものである。

スポーツ集団(クラブ)活動は, 市民のスポーツ生活を支える拠り所となり, 人びとはクラブ活動を通してコミュニティ意識を形成して行くことに役立つことが考えられる。それは, スポーツ集団活動は単なるクラブやチームワークのことよりも, 人間関係を育てる生活の拠り所と考えることができる。そのためにも, スポーツ仲間, 施設, 指導者, 組織, 活動内容などが体系化された, 生活文化的要素をもった集団を考えるべきである。(図13)

2) スポーツ集団の活動

- (1) クラブ結成への作業過程: ①世話役, 体指等で結成準備を練り上げる — 行政と離れる。②場所, 用具, コーチ等の斡旋をする — 世話役, 体指委員等。③クラブ結成後の体指, スポ指の役割は, 援助体制で行う。④実技コーチは, 援助押し上げ体制で行う。⑤連合会を設け(種目別連合, 多種目型クラブ連合組織, 地域総連合)自主運営に向けて自ら努力する。
- (2) クラブ活動の在り方: ①会則, 規約等を作り, 活動の目的, 方向を明確にする。②役員並びに役割分担は, みんなで行う。(審判, 競技, 総務など)③事業計画並びに予算は, メンバー主体の活動計画をたてる。④縦社会活動でなく, 活動の主体は個人, グループである。⑤グループ連合を結成し, 行政とも円滑に相互交渉を図る。

- (3) クラブ活動の運営（活動内容）：①クラブ自体の業務内容（自主運営，指導者，コーチの選任，会員確保等）。②スポーツ教室等の開設（プログラムサービス）。③場所の確保，施設の整備充実（エリアサービス）。④資料，情報提供（インフォメーションサービス）。⑤クラブと行政側（リーダー研修，傷害対策，行事企画，プログラム開発，助言支援体制等）の相互協力。
- (4) 活動の進め方（生活の中の体育）と実践のための創意工夫：①メンバーの交流，心の通い合いを大切にする。②技術の差がメンバーの関係に上下をつくらない。③新しいメンバーを歓迎し，旧メンバーとの交流を大切にする。④技術の習得及び練習法の考案，開発に努める。⑤メンバーの掌握と相互連絡を密接にする。

〔クラブの特性〕

クラブは，同じ機能集団の類型に属している中でも，加入，脱退の条件や権利義務の関係など集団内統制が最も自由かつルーズな集団で，開放的であると同時にその集団意識も稀薄であり，この点，政党や労働組合などの集団と若干性質を異にしている。したがって，クラブの結成目的も，娯楽，レクリエーションが主で，せいぜい文化的領域にとどまるのが通常である。（社会学辞典）

§：地域スポーツの施設

<活動志向と施設の機能>

1) スポーツ欲求と活動領域

趣味，友好，健康，体力，余暇，ストレス解消等スポーツ活動参加の動機，目的は多種多様な様相を提している。スポーツ愛好者，参加者が急増している現実と同時に愛好スポーツの種目も多岐にわたり，実施方法もいろいろである。スポーツの活動母体は，青年や学生による競技志向（勝敗や記録向上）であり，学校や会社を母体としたスポーツが社会体育の領域で考えられていた。そして体力技術と精神力の練磨を標榜するスポーツマン（シップ）を称揚するものであった。

現在の大衆状況下のスポーツは，地域スポーツ活動状況に見られる遊戯志向（遊び）と見ることができる。それは，個人の体力技術，経験，施設，指導者等の条件（主体条件，環境条件）に対応した，個人の主体的な活動と選択によるものである。そして，マスコミやマスメディアの情報サービスに影響されるところも大きい。ある種の流行的志向が生まれたり，運動具や服装のファッションを追う傾向すら見られる。

地域住民のスポーツ志向は，老幼男女の各層にわたり，それぞれの特性に応じた取り組み方による参加である。それは，グループやクラブによる継続的实施，持続的な健康ジョギングへの個人参加，地域の催しや行事，スポーツの集い，各種の体育・スポーツ・健康教室及び競技大会への参加などが，現在の地域スポーツの現象となっている。

2) 活動領域と施設

スポーツ（運動）の活動領域は，大きくはコート・フィールド（屋内・屋外）志向と野外志向に大別できる。特にコート・フィールド志向が旺盛で，野外志向活動も積極の様相を提して来ている。すなわち，行政，体協の企画による各種スポーツ教室，研修会及び各種競技大会の開催には，コート・フィールド志向が多く見られ，また地域住民の活動の場や実施種目においても，主な活動領域

はコート・フィールド傾向になってきている。同様にして、自然環境や資源、資材を活用したスポーツ・レクリエーションの野外活動が行われ、また史跡、神社仏閣などの探訪も推奨されている。

施設の整備充実及び野外環境整備は、地域の体育スポーツ施設及び自然の森、森林公園などの施設の数や規模の問題である。それは主として行政側及び民間資本の導入による取り組みに依存される領域である。住民のスポーツ欲求に対応する施策によるところである。

2. 地域スポーツと施設の機能

1) 公共施設と企業施設

施設の機能は、利用者である地域住民の立場から考察するのが妥当である。それは、地域住民のスポーツ欲求に対応し満足できる場所であることが要件である。必要な空間を持ち、使用したい時に簡便な手続きで、安価に使用できる。そこでは運動プログラムが提供され、指導者が配置されている。多勢の仲間が集って互に交歓できると共に、自主主体的な自治活動の場所である。

目的に応じた規模、施設設備内容、設置場所を考えることができる。それは、屋内、屋外、野外施設であり公共施設、企業施設に大別できる。また、河川敷の利用、遊休地の提供利用、無償貸与など民間有識者による施設導入も見られる。

(1) 場所的、空間的相違

公共施設は、郊外志向となり広大化傾向を示している。それには中央市街の地価高騰、交通機関の発達、自家用自動車利用の普及がある。そして自然環境を利用した野外活動志向の一方、豪華施設化の傾向が見られる。

企業施設は、市街型であり生活の身近かなところで集約的施設配置型であると共に、室内多機能的設計となっている。余暇時間の有効利用と簡便な利用サービスも今後の課題となっている。

(2) 指導体制と運営プログラム

公共施設の指導体制やプログラムでは、スポーツ教室及びアフターケアと大会行事型がある。土・日曜は行事計画が組み込まれ、一般の使用を締め出す傾向がある。ここでは、一般向けのソフトプログラムの開発とサービス精神が課題である。このための指導者の配置（リーダーバンクの利用、指導係の配置）が望まれる。民間団体（体育振興協会など）への委託管理の実施を考える。

	公 共 施 設	企 業 施 設
場 所 空 間	郊外型志向	市街中心型
	自然環境型	室内多機能、施設集約型
	広大化、オープンベース	生活環境欲求型
プログラム	スポーツ教室 (爾後のサービス) 大会行事プロ	ソフトプログラム サービス
指 導 体 制	リーダーバンク 指導係の設置	指導者の確保 資質の向上
管 理 運 営	飽和状態の緩和 フランチイズ	コース別(午前・後、夜) 入会金
	使用方法、手続	会員制(個人、家族、会員 クラブ、法人)
	委託方式 行政フォロー (ハードな公費)	利用者主体 テナント (スポーツ用品、食事)
コ ミ ュ ニ テ ィ セ ン タ ー 方 式	多 機 能 性	生活欲求充足
	民間資金導入	受益者負担
	指導助言、スポーツ相談	スクール指導

図14 体育・スポーツ施設の機能

公共、企業施設の相違点及びコミュニティセンター方式の特性

企業施設では、コース別、時間（午前・後、夜間）別の会員制による利用が考えられている。日曜日は、トレーニング室の無料開放や割引き、景品サービスなど利用者の確保へと誘導する。同時に今後とも指導者の確保と資質の向上が要求される状況があると考えられる。

(3) コミュニティ・センターの開発

コミュニティセンター方式（フランチャイズシステムの導入と同時に）施設の設置と運用は、地域スポーツの活動センターとして、機能を発揮し、効果的利用を図るべきである。すなわち、利用者、利用団体の要求の充足に応え、共に多機能性を確保すべきである。そのために生活欲求充足型の機能を発揮できるような設計と性格を持つことが必要である。

2) 施設の機能

(1) 現状への対応と施設利用

施設利用の窮状は緩和され、過密状況は解消されなければならない。そのための施設の増設整備のほか、フランチャイズ方法の開発も必要である。すなわち、立派な豪華施設よりも気軽に利用できる施設、地域的片寄り、利用的片寄り（交通事情、教室・クラブ利用等）の是正、個々の施設の利用状況を把握した行政側のフォローが要請される。

使用方法、手続きの検討が問題となる。申し込みや抽せん手続きの簡素化、県営、市営、地区センター等の施設利用区分や分担のことである。管理運営方式にも再検討の課題が残されている。ハードな公費の運用は今後も続くことを考えると、民間団体委託方式や現業独立採算方式の検討と実施が必要となる。

指導及びプログラムの提供では、利用時間帯、教室開設（午前は教室、午後はクラブ、ウィークデイは婦人など）、利用料金、申し込み方法などを含めた指導助言と同時に、スポーツ相談の役割を果たすべきである。

スポーツ教室の計画、生涯体育活動、レク活動への積極参加など地域スポーツ振興は、公共施設の中核的機能であり、行政側の必須的役割であると考えられる。

(2) 学校施設の開放と運営

①管理運営体制を整備：開放委員会、運営委員会、実践委員の制度や体制を整備すると共に、使用規定や心得の実施によって効果的な運用を図る。②広報による情宣を図る：学校は地域の文化の中心であり、地域スポーツのセンターである。スポーツに対する関心度の違いや、地域差の解消を図るための情報と啓蒙宣伝を図る。③利用者の実態に対応する：利用者の利用回数、人数を考慮する。特定のグループ（団体）種目の定期的活動への対応策も考慮の内容である。④施設の公共性を保持する：学校施設の教育的、公共的機能を考え、使用方法や用具の取り扱いに留意する。行動やスポーツマナーの点でも十分配慮することが要求される。⑤施設、用具の機能効率を発揮する：施設の性格、目的、機能、スポーツ活動の制限、狭隘と使用法の工夫など、関係者及び使用者の協議と合意を図ることが必要である。

(3) 施設の法的準拠

①社会教育法：第六章 学校施設の利用（第四十三条～第四十八条）。②スポーツ振興法：第十条 野外活動の普及奨励。第十三条 学校施設の利用。第二十条 国の補助。施行令 第一条 政令で定めるスポーツ施設。③学校体育施設開放事業の推進について。（文部事務次官通達）

§ : 地域スポーツ実践のための思索の展開

<実践活動の促進を志向する論理的整理>

1. 具体的、実践的活動の把握と整理

日常的スポーツの実践活動の展開に向けては、実践活動経験の中で望ましい姿や理想のかたちを描いてみる事が必要である。望ましい地域スポーツ促進のための条件を考えると、客観的、理論的な整理を基底とする思索が必要である。

スポーツ行事・企画の展開に向けては、客観的な思索の中で理想的と考える手続や形式を構想した試案が必要である。(図15)

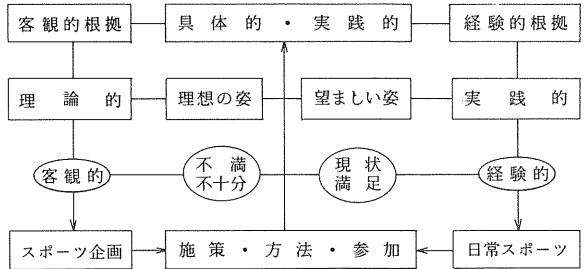


図15 具体的実践活動への志向の経緯

そのための実践活動の理想の姿は、現実の活動条件の中で満足できる姿(望ましい姿)を具体的実践活動のためのビジョンとして心掛けるべきである。

2. 地域スポーツ参与への思索の構図

地域スポーツへの参与と地域スポーツの普及促進のための啓蒙・参加、企画・運営の望ましい在り方として社会体育の理論的体系と生涯体育の実践的体系を試みることである。それは社会体育の概念的整理、生活体育への志向、地域スポーツ実践活動への具体化の方向に対する思索の展開が必要である。

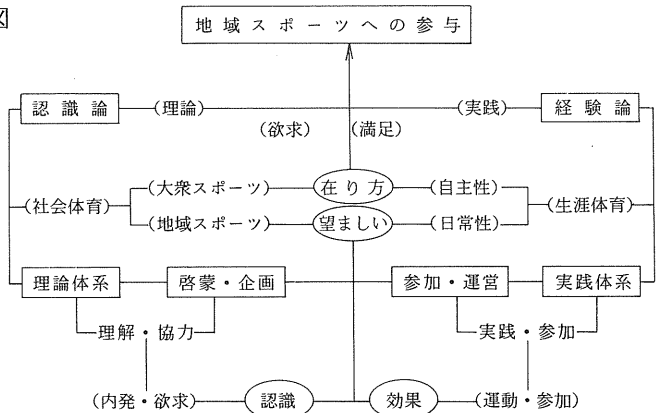


図16 地域スポーツ活動実践のための思索

すなわち、1) 地域スポーツのための思索の展開は、実践経験の中で満足できる状況を把握し、行事企画

のビジョンを客観的普遍的な面から思考することである。そのとき2) 活動促進の諸要因である主体条件、環境条件を分析し思考することが基調となる。そこから3) 社会体育、生涯体育へ志向する実践活動の構図と地域スポーツの活動理論を構想するための研究成果を期待することができる。(図16)

地域スポーツ実践のための諸要因の分析においては、それぞれの地域社会のスポーツ特性から条件を拾うべきである。地域スポーツの特性は、地域のスポーツ活動状況の育成、スポーツ発生の土壌を培うことから生まれることを考えるべきである。